

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 矢ヶ崎 典隆

研究課題		アメリカ合衆国カリフォルニア州のセントラルバレーにおける灌漑フロンティアと移民社会
報告の概要	研究目的 および 研究概要	アメリカ合衆国カリフォルニア州のセントラルバレーは肥沃な農業地域として知られる。半乾燥の気候の下で、19世紀後半に灌漑事業が進展し、土地が分割され、移民の流入によって牧畜や小麦栽培から果樹・野菜などの農業の集約化が進んだ。本研究は、セントラルバレー中央部に位置するモデスト・ターラック地域に焦点をあて、19世紀末から20世紀はじめにかけての土地利用と社会の変化を明らかにすることを目的とする。具体的には、まず、カリフォルニア州灌漑地区法の制定とそれに伴う灌漑事業の進展ならびに土地利用変化について検討する。そして、アゾレス諸島出身のポルトガル系移民、日系移民、スウェーデン系移民という3つの移民集団を比較対照することにより、農業地域の形成と集約化の動態を明らかにする。
	研究の結果	セントラルバレー中央部のモデスト、ターラック、マセド地域について1990年代に行った現地調査の成果を踏まえて、2018年秋に郡立図書館、地域博物館、州立大学図書館を訪問し、灌漑と移民社会に関する文献・資料および最近の研究論文に目を通した。その結果、以下が明らかになった。カリフォルニア州灌漑地区法（通称、ライト法、1887年制定）の施行によって、ターラック灌漑地区、そしてモデスト灌漑地区が設立され、シエラネバダ山脈を水源とする灌漑用水の利用が活発化することにより、農業発展が促進された。灌漑事業の整備に伴って農地の細分化が進行し、移民集団が流入した。スウェーデン系移民はヒルマーコロニーを建設したが、間もなくして都市へと移動したのに対して、ポルトガル系移民は酪農業に従事し、農業発展に重要かつ継続的な役割を演じた。日本人は集団入植地を建設したり、個人的に農地を借地して野菜・果物などの栽培に従事した。日系やポルトガル系の移民農業については、現在でもその痕跡を認めることができる。
	研究の考察・反省	私の研究の大きな目標はアメリカ西部の灌漑フロンティアと移民社会の役割について考察することであり、今回の調査によって一つの事例地域について考察することができた。ただし、調査のために十分な時間を費やすことができなかったのは残念であった。1990年代に収集した資料と今回の資料を踏まえて、セントラルバレーの地域変化に関する研究を続けていくつもりである。なお、アメリカ西部の各地に灌漑農業地域が形成されたので、セントラルバレーの事例研究を他地域（たとえば、コロラド州、ユタ州、アイダホ州、ワシントン州など）と比較対照することにより、アメリカ西部の地域変化を地域に即して理解することができる。その際に、水利権（優先権）に基づく灌漑組織や連邦政府の灌漑事業とのかかわりについても考察することが必要であり、新たな研究課題も明らかになった。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所		※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究発表：なし 研究成果物：なし
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		カリフォルニアのセントラルバレーで資料収集を行ったのが2018年10月26日から11月2日にかけてであり、時間的な制約から、年度内に成果をだすことができなかった。研究成果は、現在執筆中の『移民とフロンティアーカリフォルニアの開拓と日本人―』の第3章、第4章に掲載を予定している。